

◆濱まち 最初の図書館「濱まち」は呉服店だった空き店舗を改装するこ
とに。高尾さんらは、平成27年
2月から週1回のペースで、区
長や市議、商店主など10人弱で
話し合いを重ねました。市の「ま
ちのむらづくり応援団補助金」
を受け、松橋図書館の蔵書(約
6000冊)やカウンター、書
架などを譲り受け、開館へ向け
た作業に着手。倉庫に運んだ本
を種類ごとに並べ、ラベルを貼

開館までの経緯 市立松橋図書館が、老朽化・耐震力不足などで維持が困難となり、平成27年7月に閉館すると決まったことがきっかけ。
松橋町の高尾眞知子さんや一森綾子さんが「図書館がなく
なったら、街から文化が失われ
る。どこかに図書館をつくれな
いか」と知人や松橋駅通り商店
街の店主らに呼び掛けたことで
「図書がある商店街を創ろう会」
が発足しました。

◆出町 二番目の図書館「出町」は、釣り具店を営んでいた蛇嶋邦弘さんと和代さん夫婦の店舗です。
平成26年に店をやめ、店舗を地域のために使えないかと人が集まる場所として改装していま
した。蛇嶋さん家族は、読書好きでもあり、蔵書もたくさんありました。学校も近く、図書館
にはもってこいの場所。補助金
は受けず、蔵書や書架などを譲
り受け、平成28年4月3日に開
館しました。

つたり、書架の配置を考えて棚
を設置。机や椅子はリサイクル
ショップを巡って安く購入しま
した。床も温かみのあるフロ
ーリングに自分たちで張り替える
など約1年をかけ、平成28年2
月6日に開館しました。
「濱まち」が完成するまでに、
約50人が作業に参加(延べ人数
351人)。多くの人の力で
きあがった図書館です。

街なか図書館ってどんなところ？

街なか図書館 濱まち

住所 宇城市松橋町松橋1157番地
旧富屋呉服店
JR 松橋駅から約260m、徒歩約3分

駐車場 5台

最寄りバス停 九州産交バス「松橋駅通り」

開館年月日 平成28年2月6日 **蔵書数** 6000冊

貸し出し 3冊(2週間) **年会費** 無料

開館日 月・火・土・日曜 10時～18時
水曜 15時30分～17時30分(子ども広場)

運営 ボランティア(当番制)

連絡先 ☎090-4341-9074(事務局 高尾さん)



1. 歴史講座で学んでいます
2. 濱まちの外観
3. JR 松橋駅からすぐ
4. 手作りの小物なども販売
5. 展覧会も開催しています



街なか図書館 出町

住所 宇城市松橋町松橋521番地8
旧はしば釣り具店
松橋中学校正門西側、九州産交バス(株)松橋
営業所から約500m、徒歩約6分

駐車場 10台(道向かいにもあり)

最寄りバス停 熊本バス・九州産交バス
「松橋中学校入口」

開館年月日 平成28年4月3日 **蔵書数** 3000冊

貸し出し 3冊(2週間) **年会費** 500円

開館日 月・火・土・日曜 10時～18時

運営 蛇嶋 邦弘さん・和代さん夫婦

連絡先 ☎32-0275(蛇嶋さん)



1. 大きなテーブルでゆっくりくつろげ団らんも楽しめます
2. 3. 出町の外観
4. 元釣り具店だけあって、珍しい道具も飾ってあります
5. 家族で集めた本がいっぱい



「まちのむらづくり応援団補助金」事業を活用しませんか

「地域で事業をしたい」、「地域の交流を深めたい」
「たくさんの人に地域の魅力を知ってもらいたい」 など
皆さんが考える地域への「思い」をかたちにしてみませんか。

地域の皆さんで仲間をつくり、自ら汗を流して行う地域づくり活動を応援します。
まずは、まちづくり観光課にご相談ください。
補助金の内容について詳しくは、市ホームページをご覧ください。

図 まちづくり観光課 ☎32-1906 市ホームページは
こちらから⇒



まちづくり観光課
まちづくり推進係
宮崎 美紀 主事

私が担当です。
お気軽にご相談
ください。



濱まちの魅力

たくさん価値ある本がある

ひとりひとりとつての「私の図書館」になれば



たかお まちこ
高尾 真知子 さん(65)
＝松橋町＝

街なか図書館のオープンに尽力した高尾さんに、図書館への思いや濱まちの蔵書の魅力を語ってもらいました。

直木賞や芥川賞、本屋大賞などの受賞作、新聞やテレビなどで話題になった本はいち早く入手するようにしており、購入した本については、図書館だよりを発行したり、市の広報紙で紹介したりしています。

しかし、この濱まちの蔵書の魅力は、むしろ古い本がたくさんあることだと思えます。古い本だからといって価値がなくなるわけはありません。古い本が、私たち

に知恵や真実を教えてくれることもあります。その価値を見出す楽しさを図書館に来て感じてもらうたらと思います。

濱まちでは、松橋町在住の人や松橋町出身の人が出版した本は、地域として大切にし、伝えていきたいと考えています。ここは、有料で飲み物などを提供し「サロン」の役割も担っていますが、郷土の作家の作品を読みながら、「地域の文学・芸術の向上につながるようなサロン」になったらと思っています。また、元高校の社会科教師で戦時資料を収集している上村真理子さんと地域の人たちが共に歴史を学ぶ場を設け、将来に役立てられたらと思っています。

この本は、いただいたもので、大切に扱ってほしいですが、所有者はいないので、「私の図書館」と思って気軽に来てもらい、遠慮せず自由に本を手にとって読んでもらえればうれしいです。



▲NHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」でおなじみの「暮らしの手帖」。戦後の物のない時代、アイデアや工夫で暮らしを豊かにしていた時代を振り返り、暮らしの知恵も学べます。高尾さんの蔵書で「暮らしの手帖展」を開催したことも。写真の本は、寄贈されたもので、貸し出しもできます。



◀当時松橋高校の生徒で、眼窩腫瘍で若くして命を失った森畑佐知子さんの作品集「神様への手紙」。死の1カ月前の昭和38年6月に出版されました。



▲学校の教師などによる文芸誌「サロン」。編集者は中学校の国語の教師だった高尾さんの父、高尾九州男さん。

▼平成29年2月には、伊藤忠記念財団から「青少年健全育成のための読書啓発の子ども文庫助成事業」として100冊の本を寄贈されました。小学生向けの良書があります。



出町の魅力

「読書とは、自分が気付けないことを気付かせてくれるもの」

そう語るのは、館長を務める蛇嶋邦弘さん。新聞を毎日3紙読み、釣り具に詳しいだけでなく、歴史、考古学、読書など趣味も多彩。蝶や珍しい植物の話、子育ての話などさまざまなことを教えてくれます。悩みがあると、それに合う本をおすすめしてくれます。自分では選ばないような本を読むのも楽しいかもしれません。

男性の井戸端会議の場に

女性は職業が違っても子育てや料理など共通の話題がありますが、それに比べて男性は職業が違くと共通の話題が少なく、日常の中で共通の体験をするのが難しいのではと感じます。悩みがあっても家族にも話せない人も多いようです。昔の商店街の集まりなど、男性が集まって話す場は現代では少なくなりましたね。私たち夫婦は、店を営んでお客さんの話などをたくさん聞いていたからか、ここを利用してくれる人は悩みなども話してくれます。逆に、私たちにもいろいろな知識や情報を教えてくれるので、それをまた別の人に伝えることもできます。この出町が、「男性の井戸端会議」ができるような場になればと思っています。

また、作品の展示もしているので、作者に代わって制作過程や背景などをお話したり、鑑賞に訪れた人と作者との橋渡しができるのもうれしいです。



へびしま くにひろ
蛇嶋 邦弘 さん(75)
＝松橋町＝

街なか図書館の利用者にインタビュー

よしずみ はるみ
吉住 治美 さん(49)
＝松橋町＝



八代市から引っ越してきました。出町の前を散歩していたときから気になってはいましたが最初は入れませんでした。もともと読書が好きで読み聞かせもしていたので、しばらくしてから思い切って入ってみました。それからは、区長さんや近所の皆さんとも話せ、手作りのものを持ち寄ったりもしました。この図書館のおかげで、区の行事も参加しやすくなりました。濱まちでは、松橋小の読み聞かせボランティアを紹介していただき、今はおはなし会にも参加しています。蛇嶋さんの薦めてくださる本は面白いです。ここに来るとほっとし、つつい長居してしまいます。

しおやま よしき
塩山 善暉 さん(83)
＝松橋町＝



開館している日は、ほぼ毎日利用しています。この付近は、子どもの頃の遊び場でもありました。ボランティアの人たちがそれぞれ地域のいろいろな話題や情報を持っていらつしやるので、それを吸収するために訪れています。市文化協会の事務局長や松橋校区老人クラブの会長を務めており、その段取りを考えたり頭の切り替えをするのにもここを利用しています。来年の市民文化祭では、街なか図書館のコーナーをつくり、郷土史や地元の人書いた出版物を並べてみたいです。私も絵を描いているので、展示してある作品をたくさん鑑賞できてうれしいです。



地域の「宝」を 学び伝える場に

一森 綾子さん(75)
運営ボランティア
〓 松橋町 〓

以前、松橋町の郷土資料館で、資料の写真撮影や説明書き、展示などの手伝いをしていました。松橋図書館・資料館が閉館することを知って、図書館だけでなく、資料館に代わって、地域のことを学び伝える場はないかと考えているときに、高尾さんや地域の区長さんたちと出会い、図書館づくりを始めました。

私は出身は違いますが、母校でもある松橋高校に39年間勤め、この松橋が大好きです。地域を調べ歩き、「松橋三十三観音マップ」などを作成しましたが、松橋には、地域で祭られている観音様やお地蔵様などたくさんのお宝があります。また、高群逸枝さんや吉沢一喜さんなど文化や教育の発展に貢献した人もいま

す。私たち世代の役目として、地域の歴史や習わしなどを後世の人たちに語り継ぐことが大切だと思います。私たち世代では誰もが知っていること、記憶に残っていること

でも、次の世代にとっては当たり前前のことではありません。歴史や風習、町並みなど、さまざまな分野で、地域の昔を知り、話ができる人たちが地域の中にはまだまだいらっしやらないと思います。そのような人たちに、街なか図書館でテーマを設けて話してもらったり、フィールドワークを行ったりすれば、次の世代に地域のことを学び伝える場として街なか図書館が活用できるのではないのでしょうか。そうすれば、もっと地域の良さも知ってもらえると思います。



新しい商店街の 拠点に

坂本 耕一さん(69)
「図書がある商店街を創ろう会」会長
〓 松橋町 〓

商店街の中にある図書館。そこを活用してみんなが集まるきっかけになればと思い、多くの人と協力して街なか図書館を開館させました。実際に図書館ができて、訪れたお客さんが商店街の各店にも立ち寄ってもらえているのはうれしいです。図書館ができて3年間は、何が何でも頑張らねばと思い、活動を続けています。本は少しずつでも毎月購入し、展覧会もこじんまりとしてはいますが、気軽に見に来られるような雰囲気ではなかったと思います。地味ではあるかもしれませんが、まちづくりの一環として自信を持っています。しかし、年配の人は常連さんも多く来られています。親子連れなど

若い世代の人の利用が少ないです。これから、いろんな年代層の人を取り込むにはどうしたら良いかが課題です。これまで展示した人たちが一堂に会して作品の販売会などのイベントができたと思っています。作品を展示している人も、多くの人に見てもらえれば励みになります。私は販売をしているので、今後の商店街づくりも課題です。店が少なくなると、昔の商店街の面影はなくなりましたが、若い人で何か手作りにしている人なども取り込み、「駅も近いし、あそこに行けば面白いのがある」と興味を持ってもらえるすてきな商店街にしたい。夢を見ないとまちづくりはできません。希望は捨てていません。

街なか図書館のこれからを考える

日頃、街なか図書館に関わっている人たちに、街なか図書館について感じていること、課題や今後の展望を聞きました。



世代を超えた 生きがいの場に

平山 隆夫さん(72)
運営ボランティア
〓 松橋町 〓

街なか図書館の開館にあたっては、市の「まちづくり応援団補助金」を活用させてもらい、松橋図書館の蔵書や書架なども譲り受け、街のいろいろな人たちにも協力してもらいました。街なか図書館の運営には、家賃や光熱費、図書購入費がかかり、物品販売や展覧会の収益だけだと確かに厳しいですが、現在は「図書がある商店街を創ろう会」の会費や賛助会員の年会費、寄付金など、展示される人や図書館の活動に賛同してくださる人たちの善意、ボランティアの人たちの努力で維持できています。

しかし、松橋町と図書館に近い不知火町以外の人の利用は今も少なく、若い世代の人たちも少ないのが課題です。

この宇城市でも核家族化は進んでおり、実家から離れて暮らしている若い家族も多いです。そういう人たちが図書館に来て悩みを相談できたり、逆に私たちが知らないことを教えてくれるような交流の場になればいいと思います。人に何かを伝えられること、人の役に立っていると感じることは、どんな年代の人であってもうれしいことで、それが「生きがい」につながると思います。たくさんの方の善意に支えられている図書館です。で、多くの人に知ってもらい、利用してもらいたいのです。

ボランティアも募集しています。楽しみながら「生きる喜び」を見つけてみませんか。宇城市の芸術作品を発掘できるといふ楽しみもありますよ。



地域の課題を 話し合う場に

上村 博孝さん(72)
宇城市文化協会会長
〓 松橋町 〓

街なか図書館は、図書館というかたちではありますが、初めて出会う人ともくつろいで話ができる場であると思います。

現代は社会全体が忙しく、大人も共働きが多く、子どもたちも習い事などで、家庭でもゆとり話時間少ないのではないのでしょうか。しかし、ゆとり本を読んだり、人と話をしたりすることは、人生において必要なことだと思います。街なか図書館には人生経験豊かな人たちがいます。いろいろな相談もでき、また来たいなと思わせてくれるところです。

街なか図書館での展示は、美術館などと比べて、訪れた人たちが趣味の延長でも気軽に、「ここだったら自分も展

示してみたい」という刺激や創作意欲を持つことができるのが、一番いいところではないかと思っています。そういう人たちがゆくゆくは自分たちのクラブなど仲間をつくり、美術館などで展覧会を開催できれば、宇城市全体の文化活動も向上すると思います。

日常生活で気になっているのが、何か集まりがあるときに、女性に比べて男性の参加が少ないことです。市ではタウンミーティングなどが開かれています。地域の中でも、男性が集まり、宇城市が今後どうなっていくか、地域に密着した課題などを真剣に語り合う場が必要であり、街なか図書館がそのような地域づくりの拠点になってくれたらいいと思います。